

東海道五十三次を往く

第15回

東海道五十三次をミスモ編集部が巡る旅。今回は、徳川家のお膝元である駿府・府中宿へ。

府中宿

徳川家のお膝元 今なお栄える城下町

江戸幕府初代将軍の徳川家康と、最後の将軍徳川慶喜が、ともに晩年を過ごしたこの地。東海道最大規模の宿場町として大いに栄え、天保14(1843)年の記録では、本陣2軒、脇本陣2軒、旅籠43軒、人口1万4071人を誇ったという。碁盤の目状に整った道は、所どころ鍵形に曲げられ、駿府城の城下町としての面影を色濃く残している。江戸の昔に思いをはせつつ、県下随一の繁華街をゆつくりめぐりたい。



安倍川橋

川幅の広い安倍川。江戸時代には、籠や馬を使って渡っていたという。現在も開けた河原向こう、遠く山々を望むことができる。



弥次喜多銅像と駿府城石垣

東海道から少し道は外れるが、駿府城跡はぜひ見ておきたい。堀や石垣のほか、「東海道中膝栗毛」の弥次喜多銅像も。



食

安倍川の手前の「創業文化元年 元祖安倍川もち」の大きな暖簾が目印。かつては安部川沿いに多くの茶屋が軒を連ねたというが、現在はこの店を残すのみ。店内で作りたてを味わうこともできる。

石部屋 静岡市葵区弥勒2-5-24

☎054-252-5698

営業9時～17時(売り切れ次第終了)

休木曜(祝日の場合は前日) 駐車場 あり



安倍川もち 600円

こしあんときな粉の2種。つきたての餅の柔らかさを堪能できる。甘いものが苦手な人にはワサビしょうゆでいただく「からみもち」がおすすめ。お土産も。

静岡鉄道柚木駅近く

駅前の国道1号からの風景。この日は見事な富士山が出迎えてくれた。



札之辻(高札場跡)・ 上伝馬本陣脇本陣跡

県下随一の繁華街。お洒落なビルと並ぶ歩道には、数多くの石碑や説明版があるので、見落とさないように歩きたい。



「家康公と駿府 九十六ヶ町」の町名碑(七間町)

道幅が七間(約13メートル)もあったことから七間町に。通りには、当時の屋号を残す店も。

